

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名【新】世界農業遺産推進協議会負担金（「清流の国ぎふ」文化祭）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部里川振興課里川振興係 電話番号：058-272-1111(内4214)

E-mail：c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 34,733 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要求額 | 34,733 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34,733 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・令和6年度に開催される「清流の国ぎふ」文化祭2024を契機として、本県の鮎の食文化の一層の発展とその発信を図り、ひいては鮎の消費拡大とブランド力の向上を加速する必要がある。
- ・また、本県の奥深い鮎の食文化を味わうことで、「清流」をアイデンティティとする「清流の国ぎふ」の魅力を体感するとともに、川の恵みを活かす知恵や伝統漁法等にも思いを寄せる機会とし、里川とともにあった本県の生活文化の価値を再認識する機会が必要である。

(2) 事業内容

- 「清流の国ぎふ」鮎料理フェアの開催（31,980千円）
 - ・本県の鮎の食文化の一層の発展とその発信を図るため、長年受け継がれてきた昔ながらの鮎料理とともに、新しい鮎料理を融合させながら、本県の奥深い鮎の食文化を味わってもらい、鮎料理フェアを開催する。
- 「清流長良川の鮎」サスティナブルツアーの実施（2,753千円）
 - ・長良川流域における昔から続く本物の魅力を体感できるツアーを実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

「清流の国ぎふ」文化祭2024の主催者並びに世界農業遺産「清流長良川の鮎」の認定自治体及び世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会の構成員として、世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会が行う「清流の国ぎふ」文化祭2024に係る活動に対して、県が負担することは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|--------|-------------------------|
| 負担金 | 34,733 | 世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会負担金 |
| 合計 | 34,733 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
3 地域にあふれる魅力と活力づくり (1) 地域の魅力・清流文化の創造・伝承・発信
⑤「『清流の国ぎふ』ブランド」づくり
- ぎふ農業・農村基本計画（R3～R7）
4 地域資源を活かした農村づくり
③世界農業遺産「清流長良川の鮎」の保全・活用・継承と持続的発展

(2) 国・他県の状況

国内では、これまでに15地域が世界農業遺産の認定を受けており、農林水産省及び各地域が連携して、その保全・活用・継承に向けて取り組んでいる。

(3) 後年度の財政負担

令和6年度のみ単年度事業であり、後年度の財政負担はない。

(4) 事業主体及びその妥当性

「清流の国ぎふ」文化祭2024における鮎の食文化等の発信については、世界農業遺産「清流長良川の鮎」に関わる者が一体となっていく必要があり、県、長良川流域4市、関係団体で構成する世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会が主体となって取り組むことは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「清流の国ぎふ」文化祭2024を契機として、本県の鮎の食文化の一層の発展とその発信を図り、ひいては鮎の消費拡大とブランド力の向上を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R5) | R4年度 実績 | R5年度 目標 | R6年度 目標 | 終期目標 (R6) | 達成率 |
|-----------------|---------------|------------|------------|------------|--------------|-----|
| | | | | | | |
| ①鮎料理フェア参加店舗数 | 0 | | | 100 | 100 | |
| ②サステイナブルツアーの開催数 | 0 | | | 1 | 1 | |

○指標を設定することができない場合の理由

| |
|--|
| |
|--|

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|---|
| 令和2年度 | ・取組内容と成果を記載してください。 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和3年度 | ・取組内容と成果を記載してください。 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和4年度 | ・取組内容と成果を記載してください。 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|--|
| ▪ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない | |
| (評価) | |
| ▪ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) | |
| ▪ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) | |

(今後の課題)

| |
|---|
| ▪ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 県下の飲食店等が一体となって、鮎の食文化を発信していくことが重要であり、より多くの店舗が参画することが必要である。また、各店舗が主体となった民間主体の取り組みとして進めていく必要がある。 |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| ▪ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 「清流の国ぎふ」文化祭2024のレガシーを活かし、鮎の食文化を定着させ、消費拡大及びブランド価値の向上を図っていくためには、継続的な取り組みが必要である。次年度以降も引き続き、鮎の消費拡大及びブランド価値の向上を図る事業を継続していく。 |
|---|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|----------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 | 【〇〇課】 |
| 組み合わせる理由 や期待する効果 など | |